### 社會醫學及統計

### 佛國ニ於ケル結核療養施設ニ關スル法規

次ノ三篇ハ佛國衞生法規中ヨリ結核療養所ニ關スル法規ヲ内務省衞生局ニテ摘出飜譯セルモノナ

(第一) 結核患者施療所設立ニ關スル千九百十六年四月十五日ノ法律

(第二) 結核患者轉地療養所設立ニ關スル千九百十九年九月九日ノ法律

患者轉地療養所ノ設立經營及監督ニ關スル千九百二十年八月十日ノ大統領令

## ●結核患者施療所設立ニ關スル千九百十八年四月十五日ノ法律

第一章 公立社會衛生結核豫防施療所

第

條 防及ビ衞生ノ勸告、養育院、 本法ニ規定セル條件ヲ以テ公立社會衞生結核豫防施療所ヲ設クレコ 轉地施療所、養生院、豫後養生院等ニ於ケル傳染病患者收容ノ確保及ビ便易、 トヲ得、 此施療所ハ特ニ結核豫防教育、

爲メ患者ノ汚染セル襯衣、器具、場所、住居ノ消毒ニ任ス

此施藥所へ地方所在衞生、 救濟機關ト協議シテ貧困患者ノ無料診察及ビ投樂ヲ行フ

**公立施薬所ハ本法第七條及ビ第八條ニ規定スル料金ヲ以テ之ヲ共濟組合及ビ慈善機關ニ使用セシムルコトヲ得** 公立施療所ハ公益機關ニシテ本法ノ規定ニ抵觸セ ル場所ヲ除キ千九百十二年十二月二十三日ノ法律第十四條乃

至第二十一條ニ規定セル廉賃住宅事務局ノ通則ヲ欅ゲテ之ヲ公立施療所ニ適用ス但第十六條ニ規定セル大統領合ヲ

以テ許可スベキ施療所ノ公债ハ年額五萬法以下トス

公立施療所ハ縣會及ビ市會ノ諮問ヲ經其意見ヲ徵シ行政規則ノ形式ヲ以テ發シタル 大統領令ヲ以テ之ヲ設ク

社會醫學及統計

けんせ

公立施療所經營ノ許可ハ場所及ビ職員ノ能力ニ 立チテ公立施療所經營ノ恒久監督ヲ行フ 關 スル縣衞生會議ノ檢査後知事之ヲ許可シ縣衞生會議ハ知事ノ權下

第四 條 單一叉ハ數多公立施療所ノ經營ハ理事會議之ニ任ズ

=

事會議ヲ組織スル者ハ左ノ如シ

第一 縣會作製ノ名簿ニ就キテ知事ノ選定セ

v

者

縣會指定者 一名

公立施療所經營參加市會指定者一名

第四 縣衞生會議指定者一名

第五 廉賃住宅保護委員會指定者一名

第六 知事指定施療醫一名

第七 公立施療所々屬區域所在醫師組合代表者一

公立施療所々在市町村衞生署長一名

第九

公立施療所トノ契約ニ基ヅキ會員ノ爲メ之ヲ利用セル共濟組合代表者一

大學區視學官ノ推薦ニ基ヅキテ知事ノ任命セル小學校男敎員又ハ女敎員一名

理事會議々員一名ヲ以テ專任理事ノ職務ヲ執ラシム

第五條

公立施療所ノ職員ハ理事會議之ヲ任命シ醫員、

調査員及衞生指導員ハ特ニ衞生調査及卽時又ハ患者ノ住所ニ於ケル衞生指導ニ任ズ

調査員、

男女衞生指導員、

男女看護員各一名又ハ數名ョ

y 成

臨時費ノ財源ハ個人、 公立施療所ノ臨時費ハ建物ノ築造、 出體、 市町村、縣、 敷地ノ設備、 國之ヲ分擔シ且贈與、 器具ノ購入及裝置ニ關スル創業費又ハ擴張費ヲ含ム 遺贈、 補助金、 公债ノ所得ヲ以テ之ニ充

市町村、 縣及ビ各公設機關ハ無償ニテ土地、 敷地、 建物ヲ立公施療所ニ讓與シテ其創業費ヲ分擔スルコトヲ ~得公立

施療所ノ公債ハ其公立施療所ノ經常收入ヲ以テ之ニ充テ市町村又ハ縣之ヲ保證スル コ トヲ得共濟組合ハ第八條ニ 規

定セル條件ヲ以テ公立施療所ノ臨時費ヲ分擔スルコトヲ得

武 庫ハ競馬及ビ競技ノ所得 ヨリ 控除セル 純收入ヲ以テ公立施療所 ノ臨時費ヲ補助

公立施療所ノ經常費ハ一切ノ歳出及殊ニ公債ノ利子及償還額ノ支捌 建物賃借料、 貧困患者救濟費醫員ノ報

職員ノ俸給、 機械、 樂劑、 消毒劑 繃帶材料ノ購入費ヲ含ム 第七條

經常費ノ財源ハ贈與及遺贈 ノ所得、 特二 經常費ニ充當セル補助金、 其公立施療所及本條末項ニ 規定 セ ıν 市 HJ 村

縣

各公共機關及國ノ分擔額ヲ含ム

公立施療所ノ固有收入ハ成規ノ料金ニ基ケル個人又ハ團體ノ納付金ヨリ成ル 同一ノ手續ヲ以テ之ヲ團體、 共濟組合及慈善機關ニ 許可 此料金ハ知事之ヲ醫師會及理 ス jν 7 ŀ ヲ得

二年二月十五日ノ衞生法所楊經費分擔法ニ 料醫療救濟又ハ公衆衞生補助機關ト認メタル場合ニ於テ千八百九十三年七月十五日ノ施療法附屬料金表及ビ千九 上掲財源ニ 協定ス此料金ノ 由リテ自ラ支辨スルコト ・割引ハ 能 ハザル公立施療所ノ經費ハ市町村ガ其創立ニ同意セルカ又ハ縣 由リテ認可セル豫算ノ範圍内ニ於テ市町村、 縣 國之ヲ分擔 ガ特ニ之ヲ無

#### 第二章 相互施療所及私立施療所

第八條 療ヲ組合加入者以外ノ 如 、法律ニ ク設立セ 共濟組合及聯合共濟組合ニシテ施療所ヲ創立若クハ經營スル者ハ縣令ニ規定セル普通法ノ料金率ニ由リテ其施 ıν 施療所ハ之ヲ管理セル ル利益ョ受ク 者二 擴充スルコトヲ得此場合ニ 共濟組合ト獨立シテ法人ヲ爲サズ而シテ相互施療所ハ千八百九十八年四月一日 於テハ本法第三條 = 由 【リテ 知事 ノ認可ヲ經 ıν コト 7 /要ス此

共濟組 本條ニ 就 テ 由 合及聯合共濟組合ニシテ本條第 其組合又ハ リテ設立 セル 聯 施療所 合組合 市町村、 事務所 三救濟事務所代表者 項ニ 縣 由リテ施療所ヲ設立スル 各公共機關及ビ國 一名及衞生署長一名ヲ参加 ノ補 助ヲ受クル Æ , 自ラ其施療所ヲ管理 コ ŀ セ 得 シ ム w = トヲ要 ス 但 補助 金

規定セ

千九百十二件十二月二十三日ノ廉賃住宅法第三條ニ依リテ資金ノ融通ヲ享クルコトヲ得 共濟組合及聯合共濟組合ニシテ上謁條件ヲ以テ施療所ヲ設立セル モノハ公立施療所ト共ニ其創業費ニ充テム ガ

共濟組合及聯合共濟組合ハ千八百九十八年四月一日ノ共濟組合法第十七條及第二十一條ノ規定ニ反シ負擔及充當ナ キ資金ノ五分一以内ヲ舉ゲテ本條ノ適用ニ依リ之ヲ施療所ノ設立ニ關スル組合ノ持分又ハ債券公立施療所ニ對スル

抵當貸付又、施療所ノ經常財源ニ供スルコトヲ得

第九條 セ セ n 利益ヲ享クルコトヲ得 方式ニ依り其施療ヲ結核ノ豫防ニ擴充セン 慈善事業ニ從事スル團體及個人ニシテ慈善ノ目的ヲ以テ旣ニ施療所ヲ設立シ又ハ將來之ヲ設立シテ本法 ŀ 欲スル Æ 1 ハ 願書ヲ知事ニ提出シテ前條第二項及ビ第四項 ニ規定 規定

此願書ニハ補助金ノ用途明細案ヲ添付 w 報告書い 毎年末之ヲ知事ニ提出 ス n 7 スル ŀ ヲ -1 トヲ 要 製ス 知事ハ願書ノ受理スベキャ否ヲ決定ス右補助金ノ

用途

崩っ

慈善團體又ハ個人ノ施療所ハ衞生機關監督ノ下ニ立ツ

第三章 公立救濟、衞生機關附屬施療所

第十條 現行法 由リテ市町村、 縣、 各公共機關二於テ既二設立シ父ハ将來設立セ ント ス ,v 施療所八本法第六條乃至第

八條ニ規定セル利益ヲ享クルコトヲ得

第四章 公立施療所ノ强制設立

第十一條 ηί **町村父八關係市町村** 高等衛生會議 一又ハ數多市町村ノ地域内ニ於 テ其 ノ住民死亡數五年間相踵デ 全國ノ 平均死亡率ヲ超過セ 縣衞生會議及ビ縣會ノ諮詢ヲ經タル大統領仓ヲ以テ社會衞生、 縣及國ハ千九百十三年七月十四日ノ法律ニ規定セル料金率ニ基ヅキテ上揚施療所 結核豫防施療所ノ ıν 設立 ŀ # ·創立費 市町

市町村會ガ大統領令公布ノ日 3 リーケ月 ノ期間内ニ於テ施療所ノ設立ニ著手セズ若クハ**之ヲ拒絕シ又ハ三ケ月間之**  ヲ分擔ス

7 議決セザルトキハ知事ハ縣伶ヲ以テ職權ニ依リ之ヲ施行ス此規定ハ本法發布後三年ヲ經テ之ヲ施行

本法ハ元老院及代議院ノ可決ヲ經テ國法トシテ之ヲ施行

# ●結核患者轉地療養所設立ニ關スル千九百十九年九月九日ノ法律

第一章 公立結核患者轉地療養所

第一條 公立結核患者轉地療養所ハ結核專門治療機關ニシテ其管理 「八國、 縣 市町村又ハ公共機關ニ屬シ國ハ其經營費

ヲ分擔ス

**公益團體又ハ共濟組合及聯合共濟組合ノ經營セル結核患者轉地療養所ハ之ヲ公立結核轉地療養所ニ準ジ本法ノ規定** 

ヲ受ケシムル コトヲ得

第二 條 但此種機關ハ千九百十六年四月十五日ノ法律ニ規定セル手續ヲ以テ設立セルー又ハ數多ノ施療所ニ屬 國ハ第 條 ニ掲グル公立結核患者轉地療養所ノ設立、 整頓、 擴張及改造ノ爲メ之ニ補助金ヲ下 付 ス ıν ıν **\_** コ トヲ得 トヲ要

ス

此補助 金ハ其經費ノニ分ノーヲ超エ ルコトヲ得ズ此補助金ハ其場所、 設計及見積書ト共ニ之ヲ內務大臣 ノ認可ニ付

シ内務大臣ハ次條ニ列舉セル 結核患者轉地療養所病室ノ數ヲ定

軍 國庫ガ千九百十五年十月十八日ノ法律發布以來內務省ノ豫算ニ就キ又ハ結核軍人治療所設備 省 豫算ニ就キテ旣ニ支出シ又ハ支出セントスル經費ハ之ヲ前項所揭分擔金中ニ算入 1 爲メ開戦 ノ初 ョリ陸

第三條 國、 縣、 市町村ハ本法規定ノ比率ヲ以テ千八百九十三年七月十五日ノ施療法ノ適用ヲ受クベキ患者ノ公立結核

患者轉地療養所入所費ヲ分擔

國 縣施療部ハ患者救助籍所在地域内ニ 於ケル最先收容病院ノ患者日費定額ヲ負擔シ國庫ハ其ノ他 ノ費用ヲ負擔

|庫ハ又左ニ掲グル患者ノ費用ニシテ其不足額ヲ負擔

第 三年以上共濟組合ニ加入セル長期患者

八〇二

第二 公立結核患者轉地療養所ノ設立ヲ確保セル慈善組合又ハ聯合組合所屬患者

第三 千八百九十三年七月十五日ノ施療法ノ適用ヲ受ケザル患者ニシテ社會衞生、 結核豫防施療所ガ其入所ヲ

請求セル Æ ノ但此種患者ガー部又ハ全部ノ日費ヲ自辨スル ノ資力アルトキハ國ハ後日此患者ニ對シ隨時 求

償權ヲ有

千八百九十三年七月十五日ノ施療法ニ依リ市町村所屬病院ノ指定ナキ ŀ + ハ 本條第二項及ビ第三項ニ依 リ患者救助

籍所在最近接病院1日費ニ基キテ國庫ノ負擔スベキ補足額ヲ算定ス

患者ノ入院ハ施療ヲ享ク ıν 者ニ在リテハ患者救助籍所屬縣知事、 爾除ノ患者ニ在リテハ結核患者轉地療養所々在地

縣知事之ヲ 決定ス

患者給養日費ノ最高額ハ各療養所毎ニ内務省命ニ基キテ之ヲ定ム此省命ハ毎年之ヲ改正スル = ŀ · ヲ 得

此日費ハ例外ノ場合ニ於テ管理團體ノ請求ニ依リ當該年次中隨時之ヲ改正スルコトヲ得

第

内務大臣ノ發議ニ基ヅキ常置結核委員會ノ意見ヲ徵シ大統領介ヲ以テ本法

1

施行條件殊ニ左ノ諸條件ヲ定

第四條

公立結核患者轉地療養所ノ建物及經營ノ技術上及衞生上ノ條件

管轄官廳ノ監督條件

療養所ノ職員ニ對スル權力及ビ其管理上責任ノ歸屬スベ キ階長ノ競爭採用條件

第五條 縣施療部ノ救助ヲ受クバキ結核患者ヲ收容スバキ轉地療養所ノ設ナキ縣 八本法發布後五年內二公立轉地療養所

又ハ公立轉地療養所ナキトキハ私立轉地療養所ト特約ヲ結ビテ其收容ヲ確保 ス jν コトヲ要ス縣會 ガ 上揭期間內二其

議決ヲ爲サヾルトキハ參事院ノ諮詢ヲ經タル大統領仓ヲ以テ之ヲ命ズ

縣ガ私立轉地療養所ト 契約ヲ結ベル ŀ キハ其契約ハ内務省合ヲ以テ之ヲ認可シ内務大臣ハ其患者 ノ給養日費ヲ定ム

此 日費ハ毎年之ヲ改正スルコトヲ得

國 ハ本法第三條ニ規定セル條件ヲ以テ私立轉地療養所收容患者ノ給養費ヲ分擔ス

第六條 縣、 īħ 町村及ビ爾餘ノ團體ニシテ公立轉地療養所設立參與上募債ノ義務アル ŧ ノハ千九百十二年十二月二十三

H ノ法律ヲ以テ改正セル千九百六年四月十二日ノ法律ニ依リ廉賃住宅建築資金ヲ利用 スルコトヲ得

第二章 私立結核患者轉地療養所

第七條 私立轉地療養所ハ本法第一條ニ規定セル條件以外ノ團體、 組合、 聯合組合又ハ個人ノ設立セル結核患者療養機

關ナリ

私立轉地療養所ノ建物及經營上ノ技術及衞生條件其他管轄官廳ノ監督條件ハ本法第四條第一 號及第二號ニ規定セ

大統領合ヲ以テ之ヲ定

私立轉地療養所ハ任意自ラ其醫員ヲ選任スルコトヲ得

本法第五條ニ依リ縣ト特約ヲ結ベル 私立轉地療養所ハ知事ノ認可アルニ非ザレバ醫員 ノ指揮ヲ變更スル = トヲ得ズ

之ニ違反スルトキハ其契約ヲ無效トス但大統領令ニ關シテ本法第四條第三號ニ規定セル條件ニ依リ採用セル 醫員

一人ニ其指揮ヲ委任セルトキハ此限ニ在ラズ

第八條 私立轉地療養所ヲ設立セント欲スル盥體又ハ個人ハ其願書ヲ管轄縣知事ニ提出シ知事ハ之ニ對シテ領收書ヲ 交

付ス本法發布ノ當時旣ニ存在セル私立轉地療養所モ亦六箇月內ニ其屆出ヲ 上掲期間内ニ屆出ヲ為サズ又ハ前條規定ノ大統領令ヲ執行 セ ザ ıν ¥ 為スコトヲ 其療養所ノ閉鎖ヲ命ズ閉鎖ハ 要ス

۲

ر ر

其所在地

管轄檢事ノ告發ニ由リテ司法裁判所之ヲ宣告

第九條

・法ハ元老院及ビ代議院ノ可決ヲ經國法トシテ之ヲ施行ス

本

第一 公立結核患者轉地療養所 動結核患者轉地療養所ノ設立經營及監督ニ關スル千九百二十年八月十日ノ大統領令

編

章 公立結核患者轉地療養所及ビ準公立結核患者轉地療養所ノ設立條件

第一 條 千九百十九年九月七日 ノ法律第一條第一項ニ依リ設立セル公立轉地療養所ハ之ヲ其收容結核患者ノ治療ニ 充ッ

第二條 # ・スル 千九百十九年九月七日ノ法律第一條第一項及第二項ニ揭ゲタル團體ニシテ公立轉地療養所又ハ公立轉地療養所 轉地療養所ヲ設立、 整頓、 擴張又ハ改造セント欲スル者ハ其計畫案ヲ衞生大臣ニ提出シテ其認可ヲ受クル

第三條 計畫案ニハ左ノ諸項ヲ揭グ

3

トヲ要ス

第一 轉地療養所ヲ設立又ハ整頓スベキ 敷地ノ圖面

構內地積

設計書及ビ見積書

第四 收容患者ノ種類、 員數及ビ性別

第五 附屬施療所ノ名稱

第六 財源

此計畫案ハ衞生大臣所屬專門委員會ノ審査ニ付ス專門委員會ヲ組織スル者ハ 左ノ如

第一 衞生省救濟衞生局長一名

當該官廳所屬衞生監督官長一名及女子衞生監督官長一名

衞生省衞生參事官二名

第四 常置結核調査委員中ヨリ衞生大臣ノ指定セル委員六名(其中三名ハ醫師トス)

第五 衞生大臣指定建築技師一名及衞生技師一名

第四條 第三條ニ規定セル患者ノ員敷トヲ決定シタル後現行法規ニ依リ計畫案ニ對スル訓令及ビ認可ノ爾餘ノ手續ヲ行 衞生大臣ハ計畫案ヲ認可シ千九百十九年九月七日ノ法律第一條第二項ニ規定セル準用ヲ宣言シ國庫ノ補助額

第五條 衞生大臣ノ許可アルニ非ザレバ工事施行中設計案ヲ變更スル コトヲ得ズ

第六條 工事ノ進行ニ從ヒ國庫補助額ノ前拂ヲ行フコト ヲ得此前拂ハ補助總額ノ三分ノニヲ超ユルコトヲ得ズ

### 第二章 公立轉地療養所及準公立轉地療養所ノ技術及衛生條件

第七條 轉地療養所ハ之ヲ農村ニ設ヶ煤煙、 塵埃、都會又ハ工場ノ發散物ヲシテ大氣ヲ汚濁セザラシメムガ爲メ交通頻

繁ナル道路及住民ノ集團ト離隔セ シムルコトヲ要ス

轉地療養所ノ敷地ハ之ヲ滲透性乾燥地盤ニ設ケ之ヲシテ通風ニ富ミ且天然防風物存在シ給水十分ニシテ飲用水ニ富

ルコトヲ要ス

地 療養所ハ附屬園圃ニ 圍繞セラル、カ叉ハ其附近ニ鍛鍊療法用森林ノ存スルコトヲ要ス

公立轉地療養所ハ之ヲ同性患者ニ特設スル コトヲ要ス之ヲ兩性ニ混用セムト欲スルト キハ各々間隔ヲ設ケ運動

場ヲ有スル各別ノ建物ニ收容スルコトヲ要ス

第八條

第九條 ヲ得十分ナル日光消毒ヲ爲スコトヲ得ベキ方位ニ在ルコトヲ要ス 以下ノ寢臺ヲ備付ケ病室ハ九平方米以上寢室ハ寢臺一個ニ付六平方米以上ノ面積ヲ有シ總ヲ通風ノ深濶共ニ宜シキ 轉地療養所ハ患者總數百分ノ八乃至十以上ノ比例ヲ以テ寢臺一個ヲ備フル病室若干ヲ設ケ寢室ハ三個以上十個

第十條 其床面ハ滑澤ニシテ洗滌スルコトヲ得家具ハ簡素ニシテ寢臺ハ之ヲ鐵製トシ其橫材モ亦之ヲ金屬トシ患者集合室ハ 療養所ノ内部ハ單ニ 洒拭ヲ以テ有效ニ消毒スルコ トヲ得地面ハ滲透性ヲ有シ床板及ビ障壁 ノ 問隙ハ之ヲ充塡シ

濶ク日光ヲ受クルコトヲ要ス

ル便所、

第十 條 食器ノ熱湯澣濯、 轉地療養所ハ 「ホルマリン」消毒室及一定數ノ浴盤、 細菌科 放線科、 咽喉科、 實驗室、 唾痰及唾壺ノ熱消毒、 寝室ノ附近ニ於ケル 衣服刷拂室、流水洗面所、病館ニ接近セ 洗濯前ノ汚染襯衣收納地下室、 患者用

第十二條 jν 本令公布ノ際既ニ存立セル公立轉地療養所又ハ其準用轉地 ŀ ヲ得但短期間內ニ其諸條件ヲ具備セシメンカ爲メ之ヲ改良スルコトヲ要ス 療養所ハ本令第七條以下ニ規定セル條件ヲ具備

一列ニ長椅子ヲ按排シテ方位宜シキヲ得タル日光療用步廊ノ設備アルコトヲ要ス

第三章 公立轉地療養所 ノ經營條件

統 計

社

八〇五

第十三條 體代表者其療養所醫長ノ發議ニ基ヅキ主治醫又ハ療養所々屬醫員ノ證明書提出後二週間内ニ之ヲ決定ス療養所醫長 本法第三條ニ揚ゲタル患者ノ公立轉地療養所ニ於ケル收容ハ所轄縣知事、 其他ノ場合ニ於テハ療養所々屬刚

第十四條 患者ノ退出ハ醫療上社會上及ビ風紀上ヨリ考察シテ醫長之ヲ決定シ其理由ヲ報告書中ニ證明スルコ トヲ要ス

成規ノ順位ニ依リ其ノ移送シ來レル收容願書ヲ分類ス

六箇月以上療養所ニ於ケル患者ノ收容ハ際長ノ證明書アルニ非ザレバ之ヲ許可スルコトヲ得ズ醫長ハ患者 退出

ニ卽時之ヲ所轄縣知事又ハ關係闅體代表者ニ通知スルコトヲ要ス

第十五條 管理ス **公立轉地療養所ハ其管理團體代表者及無給醫員監督ノ下ニ以下諸條ニ規定セル條件ヲ以テ所長タル醫長之ヲ** 

第十六條 以外ノ職員全部ヲ監督シ其各係長ヲ任殆ス 所長タル醫長ハ療養所ヲ主幹シ其内部ノ經營財産及收入ヲ管理シ次條ニ其任免條件ヲ規定スル醫員及出納員

第十七條 所長タル醫長ハ支拂ヲ命伶シ出納員ハ金錢物品ヲ會計シ且療養所ノ經營ニ就キテ所長ヲ輔任シ其任命ハ

所ヲ管理スル團體代表者之ヲ行フ

第十八條 抵觸セザル範圍ニ於テ之ヲ公立轉地療養所ニ適用ス 養育院及慈善機關ノ一般經營就中其財政事務出納員經理ノ監督及會計ノ手續ニ 關 スル 法規ハ前諸條ノ 規定ト

第十九條 監督委員會ハ委員九名ヲ以テ之ヲ組織シ毎年其三分一ノ改選ヲ行フ

監督委員へ其轉地療養所ノ管理カ國、 縣、 市町村、 公立機關又ハ純公立機關ニ 屬 ス ıν = 從 بخ 知事、 市町村長、

機關又ハ純公立機關管理委員長之ヲ任命ズ

第二十條 轉地療養所ガ縣 監督委員會ハ轉地療養所一切ノ事業ヲ監督シ其內規、 **屬スルトキハ縣會、** 市町村ニ屬スルトキハ市町村會其監督委員三名ヲ任命ス 豫算、 決算、 管理行為即チ財産管理方法、工事

應訴 和解、 投資、 財産ノ取得、 募債、不動産ノ賣却又ハ交換、遺贈又ハ贈與ノ受諾、 年金ノ許與ニ關シテ

#### 其意見ヲ 述ブ

第二十一條 内部ノ組織ト經營トヲ規定シ殊ニ所長ノ任命セル職員ノ任命及進級 所長タル懲長ノ發議ニ基ツキ其轉地療養所管理團體代表者ノ承認ヲ經テ監督委員會ガ可決セル規則ヲ以テ ノ條件、 紀律、 退職、 患者風紀問題及榮養制度

ヲ定ム

衞生、 教濟、備急大臣ハ各種團體ノ模範規則ヲ定ム

第二十二條 公立轉地療養所ノ醫務ハ所長タル醫長及一名又ハ數名ノ醫員補之ヲ確保ス

第二十三條 醫長及醫員補ハ所内ニ居住シ所外ノ診療ニ從事スルコトヲ得ズ但第十八條ニ規定セル監督委員會ハ其地方

醫師ノ請求ニ由リ之ニ對シテ患者ノ診療ヲ許可スルコトヲ得此許可ハ之ヲ取消スコトヲ得

看護婦長ハ六箇月以上結核患者治療機關ニ於ケル見習ヲ證明セルカ又ハ看護婦、

巡訪婦養成學校ノ卒業證

書ヲ有セル看護婦中ヨリ之ヲ採用ス

準公立轉地療養所へ財政上及經營上共ニ獨立ス

第二十五條

第二十四條

準公立轉地療養所ハ法定補助金ノ享有ト補助金決定トノ爲メ 其收支ヲ監督シテ其財政狀態ヲ確定スバキ會計表ヲ作

補助金下付請求書ニ添付シテ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四章 公立轉地療養所醫員任用條件

所長タル醫長ハ本法第二十一條ニ規定セル監督委員會ノ作製セル適任者名簿ニ揚ゲタル醫員補中ヨリヲ之ヲ選任ス 公立轉地療養所ノ所長タル醫長及醫員補ハ衞生、 救濟、 備急大臣之ヲ任命ス

第二十七條 公立轉地療養所々屬際員補候補者へ所轄縣知事ヲ經テ採用願書ヲ衞生大臣ニ提出シ衞生大臣ハ競爭候補者

名簿ヲ確定ス

公立轉地療養所々屬醫員補ハ佛人ニシテ齡三十五歲ヲ出デズ犯罪人名簿及官立醫科大學ノ授與セル醫學博士ノ免狀 提出シ且試驗所及結核患者治療機關ニ於クル實地練習ヲ證明ス ヲ要ス

jν

醫員補ハ女子ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十八條 資格審査委員會ハ候補者ノ資格ヲ審査シ之ヲ二種ニ分チ其一ハ二年以上醫員補ノ職務ヲ執レル醫長適任者

其二ハ公立轉地療養所々屬醫員補適任者ト爲ス

資格審査委員會ハ左ノ委員十名ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長タル救濟、衞生局長一名

第二 衞生省衞生參事官二名

衛生監督官長二名

聯合醫師同業組合互選代表者一名

常置結核豫防委員タル醫師三名(資格審查委員會所專屬專門委員候補者名簿中ヨリ抽籤ヲ以テ順次之ニ任ス)

佛國聯合醫師會代表者一名

上掲五名ノ醫師ハ醫長及ビ醫員補ノ競爭任用 ニ加ハルコトヲ得ズ

競爭任用規則ハ衞生省介ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條

救濟、

資格審査委員六名以上ノ出席アルニ非ザレバ有效ニ議決スルコトヲ得ズ

衞生局長ハ公立轉地療養所々屬醫員一名以上五名以下ノ缺員アル毎ニ資格審査委員會ヲ招集ス

巒長及醫員補ノ定員、俸給、退職許可條件及ビ退隱料ノ定率ハ大藏大臣及衞生大臣ノ副署セル大統領合ヲ以

テ之ヲ定ム

第三十一條 公立轉地療養所々屬際員ハ療養所ヨリ住居、 點燈、 煖房、 洗濯費、自己及家族ノ有償給養、 毎年一 箇月間

賜暇ヲ受クル權利ヲ有シ醫長ハ其執務ノ範圍ニ於テ結核會議ニ参列スルノ義務ヲ負フ

衞生局長ノ發議ニ基ヅキ第二十八條ニ規定セル資格審査委員會ノ意見ヲ微シテ之ヲ一年ニ減ズルコトヲ得 衞生大臣ハ次條規定ノ留保ヲ以テ 在職三年後公立轉地療養所々屬醫員ノ 進級ヲ許可 ス此三年 ノ在職ハ救

**公立轉地療養所所屬醫員ノ停年ハ六十歲トス但之ヲ六十五歳ニ延長スル** コト ヲ

第三十三條 公立轉地療養所所屬醫員ノ職務上ノ過失又ハ無能力ニ對スル 制裁ハ左 一一如シ

第一 戒告

第二 三年以内進級ノ停止

第三 降級

第四 免職 休職

第五

上揭處分ハ第三十四條ニ規定セル資格審査委員會ノ意見ヲ徵シテ衞生大臣之ヲ宣告ス但戒告ハ此限ニ在ラス

述へ且其制裁ヲ發議ス但此場合ニ於テ聯合醫師組合及佛國聯合醫師會指定委員ハ被審判者ノ階級ニ從ヒ醫長又ハ醫

第二十八條ニ規定セル資格審査委員會ハ公立轉地療養所所屬醫員職務上ノ過失及無能力ニ就キテ其意見ヲ

員補各々二名ヲ以テ之ニ代ユ

第三十四條

第三十五條 ヲ具備シ且第二十八條ニ規定セル適任者名簿ニ記載セラル、コトヲ要ス 本合頒布後五年間所長々ル醫長ノ任命ハ年齡、 見習ノ條件ヲ要セ スシテ之ヲ行フ但其候補者 ハ爾餘諸條件

第五章 公立轉地療養所ニ對スル當該官憲ノ監督

第三十六條 公立轉地療養所及準公立轉地療養所、其所在地管轄知事及ヒ醫科大學教授又、醫學專門學校教授及知事代

理衞生監督官ノ監督ヲ受ク

公立轉地療養所及準公立轉地療養所ノ高級監督ハ現行規則ニ規定セル條件ヲ以テ衞生省衞生監督官長之ヲ 確保ス

内務大臣衞生大臣又ハ知事ノ特ニ指定セル 耆 رر 隨時公立轉地療養所及準公立轉地療養所ニ臨ムテ其經營ヲ調査ス ıν

トヲ得

第六章 私立轉地療養所

第三十七條 本令第二章ハ之ヲ私立轉地療養所ニ適用ス

第三十八條 知事ニ提出シ且之ニ第三條第一號第二號及第四號ニ揭クル書類、 私立轉地療養所ヲ設立セント欲スル團體又ハ個人ハ千九百十九年九月七日ノ法律第八條ニ規定セル屆書ヲ 病室及治療室ノ圖面ヲ添付スル コトヲ 要ス

第三十九條 衞生大臣ハ第三條ニ揭クル意見會ノ意見ヲ徴シ右屆出後二箇月內ニ轉地療養所ノ必要ナル設備ヲ爲スニ至

ルマテ其開設ヲ禁スルコトヲ得

第四十條 第四十一條 衞生大臣ハ本仓施行ニ任シ官報ニ登載シテ之ヲ法令彙纂ニ合綴ス 終 ŀ

衞生大臣及知事ハ其代理官ヲシテ轉地療養所ヲ監督シテ其經營狀態及條件ノ適否ヲ調査セ シ 厶 IV **=** 

· ヲ得